

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670200217		
法人名	株式会社 ウエルネット		
事業所名	洛和グループホーム円町		
所在地	京都市上京区下立売通御前西入大宮町498-1		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670200217&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族さま、関係機関に「活動報告」として定期的に事業所内の運営(活動)を写真を添えて報告している。健康管理面において、協力期間との連絡調整は当然ながら、他のサービスとも協力して入居者さまの援助を行っている(口腔ケア、訪問マッサージ、フラワーアレンジメントなど)。個別な外出においては、入居者さまの馴染みの地などに赴き昔を思い出せるなどの活動を行っている。また、全体の行事としては、年に2回後家族様にも積極的に声をお掛けして、外出・夕食を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古いアパートを改修して開設されたホーム内は、古さゆえの懐かしい雰囲気が醸し出されています。段差をうまく利用したり、装飾やレイアウトなど職員の創意工夫で家庭的で居心地のよい空間となり、多くの利用者が日中リビングで過ごしています。管理者が交代直後という事もあり、新たな目で見たホームの改善課題に取り組んでいます。ケア記録の書式変更や職員の意見を積極的に取り入れる為の工夫、以前からの課題であった地域との良好な関係構築の為に一部食材を近隣から購入するよう変更するなど、管理者は職員と話し合いながら課題の改善に向けて積極的に取り組み始めています。利用者の個別支援や日々の散歩にも力を入れており、雨の日も含めて日に何度も利用者や散歩や買い物へ出かけるなど、利用者が閉塞感を持たれることが無いよう利用者本位の支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示している。	法人理念を玄関に掲げ理念に添ったケアに取り組んでいます。法人理念を基に地域密着型事業所として、より具体的な独自の理念を職員間で話し合い年内に作成を予定しています。カンファレンスなどで職員に意識付けを行いながら取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店に買い物に出掛けている(魚屋、饅頭屋、床屋等)。回覧板にて地域の情報を得ている。	自治会に加入し、回覧板から情報を得て地域包括主催の体操教室や小学校の運動会、敬老会の催しなどへ利用者と一緒に出かけしています。年2回保育園児の来訪があり交流を持ったり、月2回地域のボランティアによるフラワーアレンジメント教室を開催し、交流の機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時等の外出時には挨拶を行ったり、行事のポスターを玄関に掲示したりして、情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に実地している。ご家族、関係機関には、議事録の配布にて報告している。その際、活動報告を添えることで、GHの活動をお伝えしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に利用者や家族、地域包括支援センター職員などの参加を得て開催しています。ホームの状況報告や利用者の様子が分かり易い写真入りの資料を配布して行事の説明などを行い、意見交換をしています。会議録は全家族に配布しています。地域の方への案内は行っていますが参加は得られていない状況です。	管理者交代直後でもあり、新任の挨拶を兼ねて会議録を自治会へ持参される予定にしています。地域の方の参加が得られるよう引き続き働きかけを行われることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上京区連絡会に参加している。また、事業所単位ではなく、GH統括も市町村との連絡調整等行ったりしている。	行政主催による地域の医療や福祉事業者を対象とした上京区連絡会に介護課の職員の参加があり連携を図っています。更新手続きなどは法人が行い、法人を通して関係を持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束行っていない。重要事項説明書にても、ご説明している。また、組織的にも研修を計画的に行い取り組んでいる。	職員は本部で定期的に関催される研修に参加し、資料を回覧して共有しています。利用者が立ち上がった際など、行動を制限することなく寄り添うケアに努めています。玄関を出ると踊り場が無く、直接階段へと続いており安全面への配慮から家族の同意の下に施錠していますが、利用者が閉塞感を持たれることが無いよう積極的に外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織的にも研修を計画的に行い、全職員周知出来、実行できるよう取り組んでいる。		

洛和グループホーム円町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者様にも、1名後見人を利用していただいているかたがおられたり、以前の入居者様にもおられたりで、理解と活用を深められている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、GH担当相談員と管理者が行い、十分な説明を読み合わせしながら、かつ補足も加え行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にご意見箱を設置している。(ただし、利用はない)プラスα年に2回アンケートを実施し、意見の収集と、改善を行っている。	ケアプラン変更時や面会時に直接意見や希望を聞いたり、会えない場合は電話などで伺っています。様々な意見が出されており、改善点があれば職員間で話し合い、その取り組みの結果に付いては全家族に書面で伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的カンファレンスを行っている。また、必要時には随時行っている。事業所外においても、組織的に交流等行っている(全体会議、全体研修等)。	カンファレンスを全職員が出勤する行事日に開催したり、申し送りノートやA4のメモ用紙を事務スペースに貼り、職員が意見や日々気付いた事などを気軽に記入できるよう工夫しています。多くの意見を拾い上げ、出された提案等は、職員で話し合いケアに活かしています。管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己申告等にて個別の話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、組織内研修に加え、GH協議会、また、京都市よりの研修に参加したりしている(23年度実践者研修1名参加中)。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の活動に積極的に参加している。また、そこで行われる北ブロックの集まりにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には相談員が基本的には窓口となり、ご要望等お聞きしている。(入居前アセスメントシートにて)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には相談員が基本的には窓口となり、ご要望等お聞きしている。(入居前アセスメントシートにて)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、入居前の介護支援専門員等の関係者などご本人・ご家族の様子をお聞きしたりしている。(相談員が窓口)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にすることで、良い関係づくりに努めて対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も生活の様子をお伝えしている(チェックシートの送付にて)、かつ、受診等付き添いしたり、面会時は出勤職員が生活の様子をお伝えしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出にて馴染みの場所等への支援を行っている。また、ご家族以外、ご友人等のご面会にも対応している。	日頃から家族の面会が多く、家族と共に知人が訪ねて来られることもあります。家族から馴染みの情報を得て、個別外出の日に支援しています。又、入居後にできた近隣の馴染みの場所へは散歩時などに出かけています。年賀状を書かれる方には宛名書きを支援したり、投函や直接手渡すなどの支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会にて皆でお祝いしたり、フラワーアレンジメントにて共同活動したり、無理のない範囲で良好な関係の構築援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが切れる前は、関係者と今後の話し合いの場を持ったりして、今後心配のないよう援助しているが、サービス終了は、亡くなったりされることが多く経過のフォローはほぼない状況です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成の際には、必ず思いや意向をお聞きし、それを活かしたプラン作成を行っている。	入居時に本部が聴き取った基本情報やセンター方式を用いて利用者のこれまでの生活歴や意向など様々な情報を基に、以降の把握を行っています。全職員が利用者の日々の様子や言動を記録に残せるよう取り組み、共有しながら思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用にて生活歴の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアより、24時間シートを作成したり、一人一人の1日の様子等の把握・理解に勤め、援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ISOの取り組みにて実践している。	アセスメントを基に利用者や家族の意向を取り入れた介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリング、評価を行い6ヶ月毎に再アセスメントを実施して見直しています。見直しの際にはカンファレンスを開催して意見を出し合い、必要に応じて医師の指示や関係者の意見を反映しています。記録の方法の変更に取り組みより、評価しやすい様式となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌の活用、また必要時にはプランの変更を行い、援助している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内に、往診医・歯科医・衛生士・マッサージ師など、多くの職種が入り援助している。		

洛和グループホーム円町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	京都らしく、大文字を西大路まで見に行ったり、地域の特性を活かして援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診はご家族の希望通り行っている(ただ、現在は9名すべて往診医)。必要時は、ご家族に報告し(指定用紙あり)、日程調整可能な場合は行い、ご家族同行にて受診行ったりしている。	契約時にかかりつけ医の希望を聞いてます。月2回の往診と週1回看護師の訪問があり、専門の科は受診支援を行っています。治療内容や薬に変更があった場合は「受診結果連絡票」を用いて家族へ伝えていきます。緊急時は家族にも付き添いを依頼して一緒に受診し情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力訪問看護ステーションと協働している(府庁前と契約にて)。NSよりの連絡はファイルにて職員はいつでも閲覧・確認可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	GH相談員が主となり、HPとの連絡調整行い、入退院の対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約の際に指針の説明を行っている。実際の活動には現在つながっていないが、必要時には実践できるよう、組織内でシステムの構築も行っている(他事業所の経過・結果報告等にて、また組織内の報告会にて)。	入居の際に看取りの指針に付いて、常時医療行為が必要となった場合には難しい旨伝えていきます。現在重度化された方がおられ、家族や病院、訪問看護などが集まり、今後の方針に付いて話し合いを重ねています。方針は文書にして職員間で共有し、できる限りの支援を行いたいと取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	組織的に全職員対象に普通救命講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している(報告書あり)。	年2回消防署指導の下、昼夜を想定した避難訓練を実施しています。ホーム独自でも不定期で連絡網の確認や、法人から予告なく連絡網が機能し、内容が正しく伝わるかの確認が行われています。又、利用者情報やホームの見取り図などを災害時持ち出し袋に準備して備えており、防災意識を持てるよう取り組んでいます。	防災に限らず、地域の方とは日常の信頼関係の構築に取り組みたいと考えておられます。消防訓練の際に近隣への声掛けなど地域への働きかけを継続されることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	組織的な研修と伝達研修にて全職員が理解でき実践できるよう取り組んでいる。特に、今年度は全職員対象のマナー研修を行ったりしている。	接遇マナー研修に全員が参加して報告書を作成し全員が意識できるように取り組んでいます。日常的には個々の方に合わせた声かけや声の大きさ、服装などにも気を配っています。不用意な対応があった場合には職員同士で互いに注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思など伝えにくい入居者さまが多い中、日々の活動より、入居者さまの発言を記録したりして、思いを実現できるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	具体的には、個別な外出・入浴などで、その人らしいペースを大切に援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	皆様各々の洋服など着られ、その人らしく援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さまの能力にあった援助を行っている。食事常と一緒に同じものを食べている。咀嚼・嚥下に合わせ最終配膳等行っている。	食事の献立は利用者の希望も聞きながらその都度立て、足りない食材などを一緒に買いに行っています。下ごしらえや配膳、下膳、テーブル拭きなど出来る事を共に行っています。一緒に手作りおやつを作ったり、季節の行事食や敬老の日に家族とホテルで食事するなど楽しみ事の支援も行っています。職員も会話しながら一緒に同じ食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な際には、ストローマグを使用したりご自身の能力に合わせて援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアに加え、必要者には、衛生士のケア、またそこから、歯科医師の治療と早期につなげられるよう援助している。		

洛和グループホーム円町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄の確認を行い、下剤の服用援助DRの支持により行っている。また、それぞれの方に合った下着の着用を行っている。	トイレでの排泄を基本に支援しています。夜間のみ失敗が多かった利用者には居室にポータブルトイレを設置することで失敗がなくなった方もおられ、個々に合わせた支援を行っています。そわそわされるなど利用者のサインを見逃さない支援を心がけ、多くの方に失敗が減るなどの改善が見られています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ることなく、ホットマッサージ、水分調整(時には牛乳などの積極飲など心がけている)、DRへの下剤相談等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の最低基準にとらわれることなく援助している。体調等考慮して、また予定なども考え対応している(例えば、行事外出で疲れておられるような場合は無理に入浴してもらうことがなかったり、その時々で対応している)	週2～3回をめぐりに午後から夕食までの間で入りたい方から順番に入浴して貰っています。お気に入りの決まったシャンプーを使う方もあり、マンツーマンでゆっくりのんびり入って貰っています。季節のゆずやしょうぶ湯を楽しみ、又、夜間の希望にも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整をしたり、日中の活動など考え、昼夜の区別がつき規則正しく生活できるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の表をいつでも確認・閲覧できるようにしている。変更時は、そのつど特記にて申し送りして状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式等のアセスメントの活用にて一人一人の生活歴を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩(公園・フレスコ・郵便局など)や、個別・全体の外出にて援助している。	雨天をいわず毎日散歩に出ています。一日何度も外出する時もあり、スーパーや商店街などへ利用者と日常的に出かけています。家族との外出行事にも取り組み、一緒に琵琶湖ホテルへ花見に行く事もあります。近隣の喫茶店へ行ったり、個別外出も支援しています。	

洛和グループホーム円町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金をご自身で管理されている方はおられないが、その方の能力を考え、必要であれば所持等してもらえよう援助していく体制はある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、残念ながら手紙を贈ることはないが、送られてきた手紙を見てもらうことはある。電話については、施設の電話をいつでも使っていただける環境にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりしている(月2回のフラワーアレンジメントにて)。日めくりカレンダーにて、日時がわかったり、新聞にてわかったりされている。	リビング内は保育園児が描いた絵が壁に飾られ、利用者がフラワーアレンジメントで活けた季節の花々が活けられ季節感に配慮しています。ホーム内は家庭的で暖かい雰囲気があり、利用者が穏やかに思い思いに過ごして貰えるようソファを数か所に置き、時には配置替えを行いながら居心地良く過ごせる空間となるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVを2台設置にて、またそれに合わせてソファを配置したり、またいつもの席を一人一人のご希望にそって配置したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を用意してもらっている。また、生活と共に必要なものなどが出来た際はそのつどお話しして相談している(N氏のPTイレ、K氏のベット→布団など)。	契約時と随時に利用者が馴染んだ品や使いやすい物を持って来て貰うよう家族に伝えていきます。利用者はタンスや座卓、時計、歌が好きな方はステレオ、自分の洗濯物を干す室内干しなどを思い思いに持ち込み、その人らしい部屋作りがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントの際、出来ること・出来ないことシートの活用にて見直し等行っている。		